

令和8年度産業経営研究所 所員個人研究テーマ一覧

| No | 区分 | 資格 | 氏名 | 研究テーマ | 備考 |
|----|--------|------|---------|--|-----------|
| 1 | 所長(兼任) | 教授 | 日比野 浩典 | デジタルツイン技術を活用する生産システムのモデル化の調査研究 | 運営委員会委員長 |
| 2 | 次長(兼任) | 〃 | 西 脇 暢子 | 日系企業の知識マネジメント | 運営委員会副委員長 |
| 3 | 所員(兼任) | 〃 | 栗 野 俊一 | [a] エルディッシュ・トゥーランの予想 [b] 最短経路書き換え問題 | 運営委員会委員 |
| 4 | 〃 | 准教授 | 南 雅一郎 | 米中貿易の推移と通商・為替政策 | 〃 |
| 5 | 〃 | 専任講師 | 飯 塚 隼光 | 会計数値が身体に与える影響とそこから誘発される意思決定について | 〃 |
| 6 | 〃 | 教授 | 石 川 恵子 | 次世代公会計・公監査モデルの構築に向けた研究 | |
| 7 | 〃 | 〃 | 大 槻 明 | Property Graph RAGに関する応用研究 | |
| 8 | 〃 | 〃 | 大 森 寛文 | 企業・組織における生成AIの活用の現状と課題に関する研究 | |
| 9 | 〃 | 〃 | 尾 上 選哉 | 非営利組織の財務報告および情報開示に係る研究 | |
| 10 | 〃 | 〃 | 権 赫 旭 | 日本の市場集中度と企業のパフォーマンス | |
| 11 | 〃 | 〃 | 兒 玉 公一郎 | 日本企業における技術の組織的な獲得・活用パターンの探求 | |
| 12 | 〃 | 〃 | 櫻 井 研 司 | Relational Response Task (RRT), Brief Implicit Association Test (Brief IAT), リッカート型尺度, およびForced Choice Item Response Theoryにもとづく道徳的離脱傾向の測定。 | |
| 13 | 〃 | 〃 | 鷺 見 英 司 | 地域社会の持続可能性と社会関係資本に関する実証研究 | |
| 14 | 〃 | 〃 | 寺 沢 幹 雄 | AI手法を用いた親近感に基づくロボット倫理知識獲得 | |
| 15 | 〃 | 〃 | 藤 野 雅 史 | 介入型アプローチの事例研究による管理会計の理論化 | |
| 16 | 〃 | 〃 | 村 田 昌 平 | 租税法律主義の内容と意義 手続的保障原則を中心として | |
| 17 | 〃 | 〃 | 横 井 のり枝 | 英国大手食品流通業のブランド研究 | |
| 18 | 〃 | 〃 | 米 澤 聡 士 | 実践共同体としての企業内教育・訓練 | |
| 19 | 〃 | 准教授 | 加 藤 恭 子 | 人事担当者および航空管制官のコンピテンシー・モデルの定量的分析 | |
| 20 | 〃 | 〃 | 孫 徳 峰 | Corporate governance and corporate social responsibility (CSR) | |
| 21 | 〃 | 〃 | 高 橋 哲 也 | 日本の雇用慣行における規範について アーキテクチャの観点からアルゴリズムマネジメントへの展開 | |
| 22 | 〃 | 〃 | 成 合 智 子 | ロボットやAI技術を応用した高齢者支援に関する研究 音声情報に基づく高齢者のロボット支援レクリエーションの有効性評価手法の研究 | |
| 23 | 〃 | 〃 | 野 口 翔 平 | 近代会計史研究：イギリスと日本 | |
| 24 | 〃 | 〃 | 三 浦 紗綾子 | 小規模組織の生き残りに関する研究 | |
| 25 | 〃 | 〃 | 村 上 翔 一 | ブロックチェーン技術を用いた取引に関する会計処理 | |
| 26 | 〃 | 〃 | 山 田 仁 志 | 日本企業のコーポレートガバナンスに関する研究 —日本企業の企業価値・資本コスト・収益性・ペイアウトの観点からの検討— | |
| 27 | 〃 | 専任講師 | 片 岡 純 也 | 創出された知識の逸脱性に対する評価のダイナミックな変化要因の探索 | |
| 28 | 〃 | 〃 | 戸 塚 英 臣 | Wavelet Leadersを用いたボラティリティのラフ性の実証分析 | |
| 29 | 〃 | 〃 | 山 口 健 二 | 高大接続を意識したPython・AIリテラシー教育教材の開発 | |